

教会にいろんな人が集まったら、どんなにいいだろう。ミサにもっと人が集まって、みんなで神を賛美したら、どんなにいいだろう。昨年の統計によれば、主日のミサ参加者は十二万四千四百六十八人で、信徒総数(四十四万九百九十七人)の約二八%。復活祭のミサ参加は二十一万二千二百八十一人で、信徒総数の四八%。主日の参加者の倍になっている。教勢によれば、主日のミサ参加者は毎年減っている(カトリック中央協議会広報

部〈現・秘書室広報〉の統計より)。今後の分析と対応に期待したい▼ともかく、ミサが素晴らしきものであり、それが生



03.7.27

義務であることだけを伝え、ミサに遅れたり来なかったりするとしかる一方で、典札(や説教)が習慣的で無味乾燥のものだったら、人はそのような所には喜んで集まらないだろう。忙しい毎日に追われる生活の中でも、主日のミサのためにぜひとも時間を取る必要に、何よりも信徒自身に、気付くような工夫がなければ、参加者は減る一方だと思つ▼毎週ミサに参加できる人は極めて少ない。その「極めて少ない」人たちのために、教会があるのではない。主日には来られないので、週日に聖体訪問する人もいるだろう。月に一度しか、年に一度しか来れない人もいるだろう。久しぶりに来られた人の気持ちをもっと考える必要がある。疎外感を味わわないように。人には、それぞれに事情があるもの。そして、それは他人にはなかなか分からないもの。もう少し互いに信頼し合つて、ともかくも今、共に集うことができることに感謝する。そうありたい。